



三春中学校だより

第 11 号

発行日 令和 元年 6 月 20 日
発行所 三春町立三春中学校
電話 0247-62-2181 F A X 0247-62-6978
E-mail miharu-j@fcs.ed.jp

【教育目標】『三春に暮らす生徒一人ひとりに、将来に対して喜びと生きがいのある人生を主体的に創造する力を育み、地域に信頼され、ひいては、国際社会に貢献できる人材を育てる』

【『忠恕』の心！ ～うれしいとき、悲しいとき、辛いとき、そこには友がいました。～】



県中地区の各会場で熱戦が繰り広げられました。県中大会ソフトボール競技は須賀川市で行われ、がんばっている選手のみなさんや顧問の先生方の姿を一目見たいと訪れたときのことでした。さすがに準決勝ともなると強豪校が勝ち上がってきて、本校ソフトボール部であっても苦戦を強いられていました。

相手の攻撃を何とか押し返しベンチに戻った我がソフトボール部のベンチ裏で、まさに、三春中学校で学んでいる選手らしい光景を目撃することができました。なかなか思い通りに行かない選手をチームメイトが声をかけたり肩を叩いたりし、(大丈夫だよ。あなたは一人じゃないよ。一緒にがんばろうね。)と励ましてあげていたのです。ソフトボールの子どもたちっていいな。スポーツっていいな。仲間っていいな。三春中学校の生徒たちっていいなと

心から思いました。競技にがんばる子どもたちの姿と共に、その心根の優しさ、思いやりの心にいたく感動し、大満足の気持ちで次の会場に向かうことができました。

【今為すべきことに心を込めて！～自分自身を、学校全体をきちんと見つめて行動します。～】

学校を回って歩く際、注目点の一つとしていつも心にとどめていることがあります。階段の角にたまった綿ゴミと雑巾がけにかけられた雑巾の姿です。階段の角はほうきでホコリをとるのが難しい場所です。汚れた雑巾はできればすぐに手から離したいものでもあります。

この日も子どもたちの健康状態や落ち着き具合を見る傍らで、階段や雑巾がけに注目しつつ校舎内を巡って歩いていました。下の写真をご覧ください。階段が光っていました。雑巾がきれいに洗われて重なることなく雑巾がけにかけられていました。

県中大会、職場体験、高校体験入学準備など、校内外にさまざまな活動・行事が目白押しの中、子どもたちは先生方と共に落ち着いた生活、きちんとした生活を送ることができています。今為すべきことを一人ひとりが考えながら、学校全体で落ち着いた生活を送ることができる三春中学校をこれからも続けていかなければならないと強く感じました。



【生徒と共に学びました！ ～3週間の教育実習が終了しました。～】

校舎内をうろつき3階の1年生ホールに行くと、教育実習の先生と子どもたちが親しく会話を交わしていました。どんなお話をしているのかまではわかりませんが、お互い楽しそうな顔で会話を楽しんでいるように見えました。

あっという間の3週間でしたが、校長よりの話から始まり、最後の週には英語や道徳の授業に取り組みました。事前に指導案なるものを見せていただきましたが、立派な指導案でした。実際の授業においても、その堂々とした取組にも感心させられました。

中学校という人生の中でも大きな揺れ動きの時代に、子どもたちは教育実習生からまた一つ生き方を学ぶことができました。生徒のみなさんには、かけがえのない人との出会いを大切に、これからの中学校生活をおし自らの生き方を見つけていってほしいと願います。



【学校でもがんばりました！ ～各学年、しっかり学習・生活に取り組んでいました。～】

県中大会で本校代表が田村支部代表として戦っている中、学校生活でも一生懸命生活する姿がみら

れました。

各学年とも少ない先生と生徒たちでしたが、それぞれの場所において静かに学習課題等に取り組んでいました。また、合唱部や美術部の活動も着実な取組を見せていました。

それぞれが自分の為すべきことと役割を自覚し、その場その場で着実に諸活動に取り組むことのできるのが三春中学校の子どもたちです。これからもそんな三春中学校であり続けたいと思いました。



【代表としての自覚を胸に！～共に、ひたむきに、全力で県中大会を戦ってきました。～】

県中大会直前の土曜日、部活動の見学に校舎に入ると、卓球部のみなさんが2年生ホールを有効活用し、大会前の練習に一生懸命取り組んでいるところでした。体育館では、バスケットボール部のみなさんが他校を招いて練習試合が始まるころでした。

直前までの練習と支部代表としての自覚を胸に参加した県中大会では、三春中の選手も見事な戦いぶりを見せてくれました。広い県中地区なので、全部を“目撃”することはできませんでしたが、見事県大会出場を決めた男子ソフトテニス部、男子バスケットボール部、柔道部のみなさんの活躍はまさに目を見張るものがありました。しかし、それと遜色ないほど、その他の県中大会に参加した部活動の選手のみなさんもすばらしい輝きぶりでした。

これまで、共に、ひたむきに練習に取り組んできた選手・顧問のみなさんの努力に大きな賛辞を贈りますと共に、県大会出場部のみなさんは、県大会までのわずかな時間ではありますが、県中地区代表としての重みを味わいながら、大会当日、ベストで臨めるよう努めてほしいものです。また、県大会の夢は破れた選手のみなさんであっても、これまでの努力の跡は決して消えるものではありません。その努力の跡を誇りとし、また、新たな目標にむかい、共に、ひたむきに、そして、こころ豊かに進んでいくことを心より願います。

県中大会出場のみなさん、留守番して学校を守ってくれたみなさん、よくがんばりました。



【自立してたくましく生きる！～ここが私の生きる場所？～】

朝の校舎裏の土手に猫が1匹。どこからやってきたのか、校舎のキャットウォークを通って土手を登り、こちらを振り返り振り返り裏山に消えていきました。

学校には食べ物はないはずなのに何を食べているのだろうか？

家族が準備してくれた朝食をいただき、買っていただいた教材で学習し、部活動の道具も買いそろえていただけの時代の中にあって、本当の『自立』の条件とは何か、学校で身につけさせなくてはならない学習内容とは何か、野良猫を見ながらしばし考えました。

